

# 第2四半期決算説明資料 (2014年度)

2014年11月28日



# 2014年度 第2四半期 決算概要

## 2014年度 第2四半期累計期間の総括

●当第2四半期累計期間におけるわが国経済は、政府の経済政策や日銀の金融政策を背景に、雇用・所得環境の着実な改善等もあり、景気は緩やかな回復基調で推移しました。一方で、消費税率引き上げに伴う反動減の長期化や円安による原材料価格の高騰等、景気の先行きは依然として不透明感を残しております。

●このような事業環境の中、消費税率引き上げに伴う反動減が予想を下回ったことに加え、原子力発電所向け呼吸用保護具の受注も一定水準以上を維持したこと等もあり、呼吸用保護具全般の受注は、前第2四半期累計期間を上回る水準で堅調に推移しました。この結果、売上高は、前第2四半期累計期間比3.1%増の39億67百万円となりました。

●一方、利益面では、年度後半以降に向けた製品供給体制の強化等に伴い、材料費・労務費増が避けられなかったものの、効率的な生産体制を維持したことから、製造経費は前第2四半期累計期間を下回りました。これに加えて製品売上高の増加もあり、製品原価率は前第2四半期累計期間比で2ポイント以上の改善となり、売上総利益は前第2四半期累計期間比9.4%増の12億32百万円となりました。

●また、販売費及び一般管理費については、期初から新製品の開発・拡販活動を積極的に推進した結果、人件費・諸経費の増加等が避けられず、前第2四半期累計期間比4.9%増の13億72百万円となりました。

●以上の結果、営業損失は1億40百万円（前第2四半期累計期間は営業損失1億81百万円）、経常損失は1億52百万円（前第2四半期累計期間は経常損失1億91百万円）、四半期純損失は95百万円（前第2四半期累計期間は四半期純損失1億36百万円）となりました。

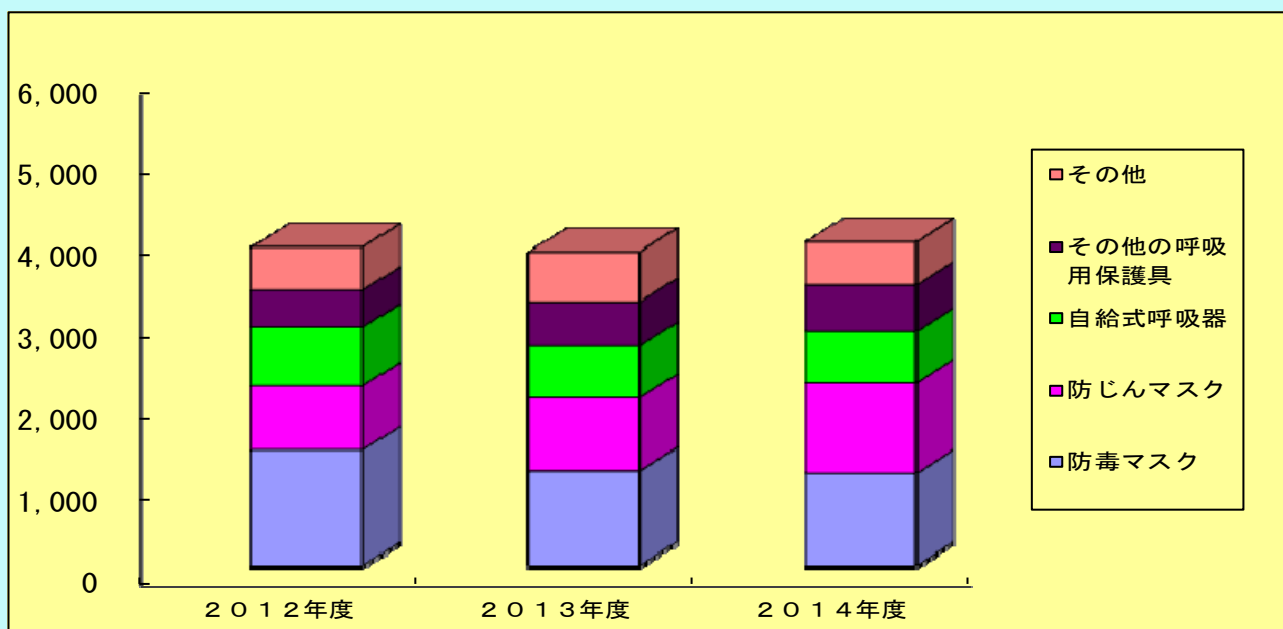
## 2014年度第2四半期累計期間 損益の状況

(単位：百万円、小数点以下第2位四捨五入)

	13年度第2四半期	14年度第2四半期	前年同期間比増減	備 考
売 上 高	3,847.5	3,967.1	119.6	消費税率引き上げに伴う反動減が予想を下回ったこと、及び原子力発電所向け製品の受注が伸びたこと等を主因に、売上高は前年同期間比で1億20百万円増加しました。
製品製造原価	1,882.7	1,951.9	69.2	前年同期間との比較で、製品製造原価率は材料費比率の上昇はあったものの、その他の製造経費比率が改善し、商品原価率も前年同期間並みを維持したことから、売上総利益は1億6百万円増加し、売上高総利益率は1.8ポイント改善しました。
商品原価	839.0	783.4	△ 55.6	
売上原価	2,721.7	2,735.3	13.6	
売上総利益	1,125.8	1,231.8	106.0	
販売費及び一般管理費	1,307.2	1,371.8	64.6	販売費及び一般管理費は増加しましたが、売上総利益の増加もあり、営業損失は前年同期間比で改善しました。
営業利益	△ 181.5	△ 140.0	41.5	
営業外収益	26.5	18.9	△ 7.6	受取配当金の減少もあり、営業外収益は減少しましたが、借入金利の圧縮等により、営業外費用も減少しました。この結果、経常損失も前年同期間比で改善しました。
営業外損失	35.8	30.6	△ 5.1	
経常利益	△ 190.8	△ 151.8	39.0	
特別損失	9.0	5.7	△ 3.3	固定資産除却に伴う特別損失を計上しておりますが、通常の変動範囲内のものです。
税引前四半期純利益	△ 199.8	△ 157.5	42.3	
法人税、住民税及び事業税	3.0	2.9	△ 0.0	以上の結果、四半期純損失は前年同期間比約30%減と、順調な改善を示しています。
法人税等調整額	△ 66.8	△ 65.6	1.2	
四半期純利益	△ 135.9	△ 94.8	41.1	

## 第2四半期累計期間のセグメント別売上高推移

(単位：百万円)



単位：百万円、小数点以下第2位四捨五入

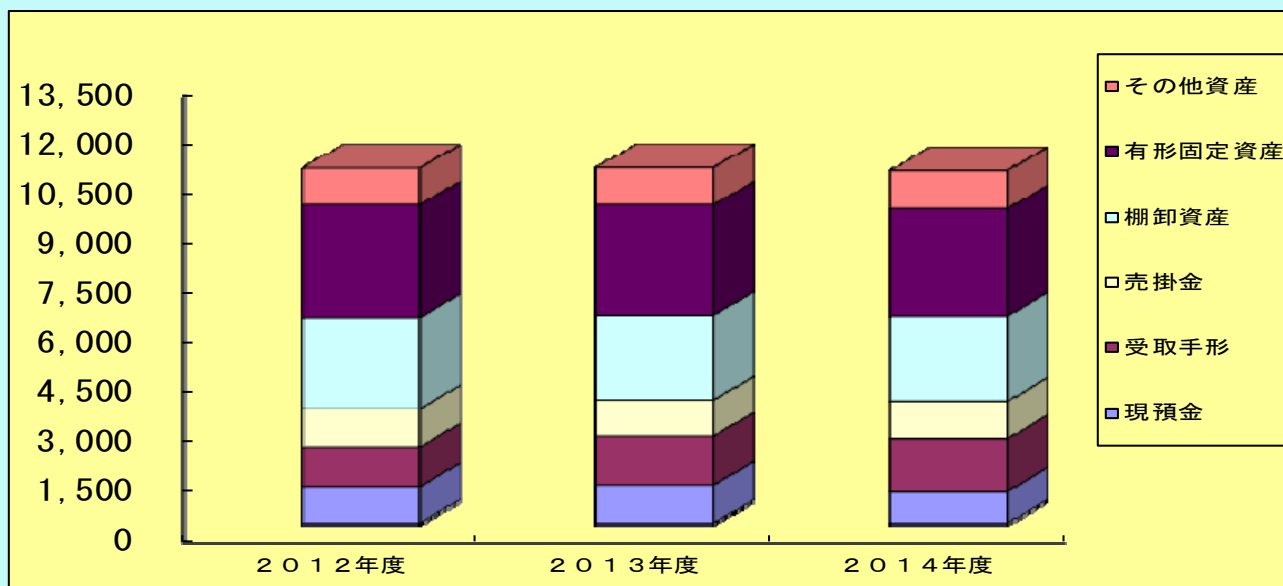
	2012年度	2013年度	2014年度
防毒マスク	1,421.4	1,161.9	1,133.5
防じんマスク	784.5	894.8	1,108.0
自給式呼吸器	719.1	634.3	628.9
その他の呼吸用保護具	450.7	541.0	568.6
その他	529.9	615.4	528.0
合計	3,905.6	3,847.5	3,967.1

## 当第2四半期累計期間の特徴

- ① 当第2四半期累計期間の売上高は、消費税率引き上げに伴う反動減が予想を下回ったことに加え、原子力発電所向け受注も一定水準以上を維持したこと等もあり、前年同期間比では1億20百万円の増加となりました。
- ② 防毒マスクは、前年同期間比で28百万円、率にして2.4%の減少となりました。
- ③ 防じんマスクは、原子力発電所向け製品や使い捨て防じんマスクの拡販等により、前年同期間比で2億13百万円の増加となりました。一方、自給式呼吸器は、ほぼ前年同期間並みの売上を維持しております。また、その他の呼吸用保護具等の合計は、約60百万円減少しました。

## 第2四半期末の主要資産状況推移

(単位：百万円)



単位：百万円、小数点以下第2位四捨五入

	2012年度	2013年度	2014年度
現預金	1,113.7	1,163.0	983.5
受取手形	1,198.5	1,481.6	1,582.1
売掛金	1,154.6	1,088.4	1,129.5
棚卸資産	2,759.6	2,566.9	2,582.4
有形固定資産	3,413.3	3,339.3	3,244.5
其他資産	1,106.0	1,124.1	1,147.9
合計	10,745.8	10,763.4	10,669.9

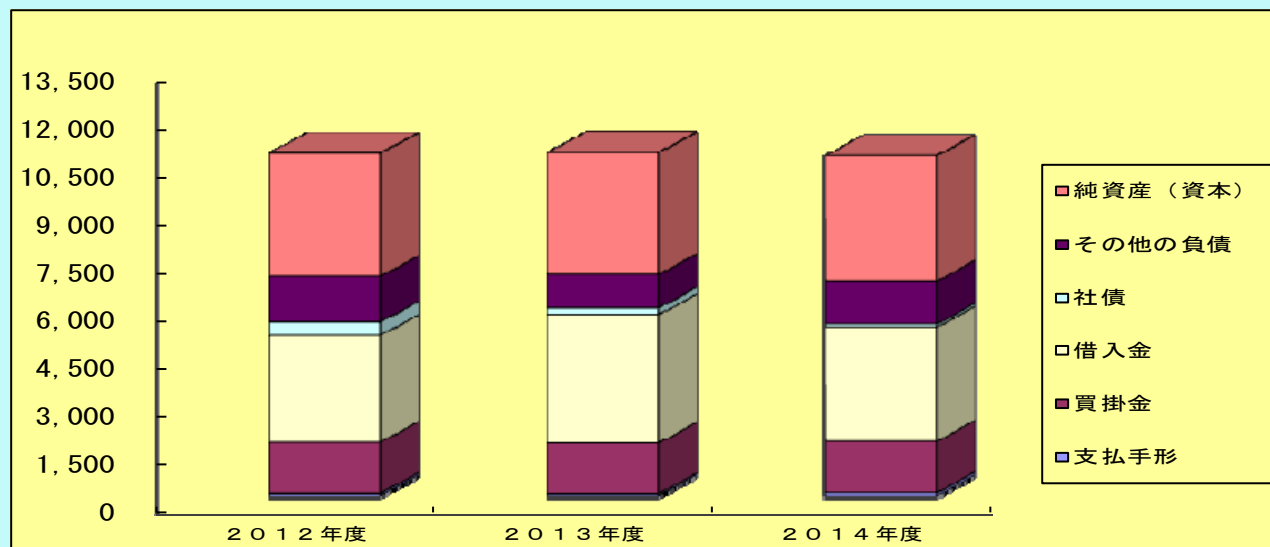
注：本表における受取手形には、債権売却手形（資金化分）は簿外のため含まれていません。

## 当第2四半期末の特徴

- ① 現預金の残高は、前第2四半期末比では1億79百万円減少していますが、これは、長期借入金の折り返しのタイミングによるものです。
- ② 売上高の増加に伴い、売上債権（受取手形＋売掛金）は、前第2四半期末比で1億42百万円の増加となりました。
- ③ 棚卸資産は、前第2四半期末比では15百万円の微増と、ほぼ前年度並みの水準を維持しております。
- ④ 大型の設備投資は実施しておらず、各種金型の償却が終了したこともあり、有形固定資産は、前第2四半期末比では95百万円減少しております。
- ⑤ その他資産については、前第2四半期末比では24百万円の微増となっております。

## 第2四半期末の主要負債・純資産状況推移

(単位：百万円)



単位：百万円、小数点以下第2位四捨五入

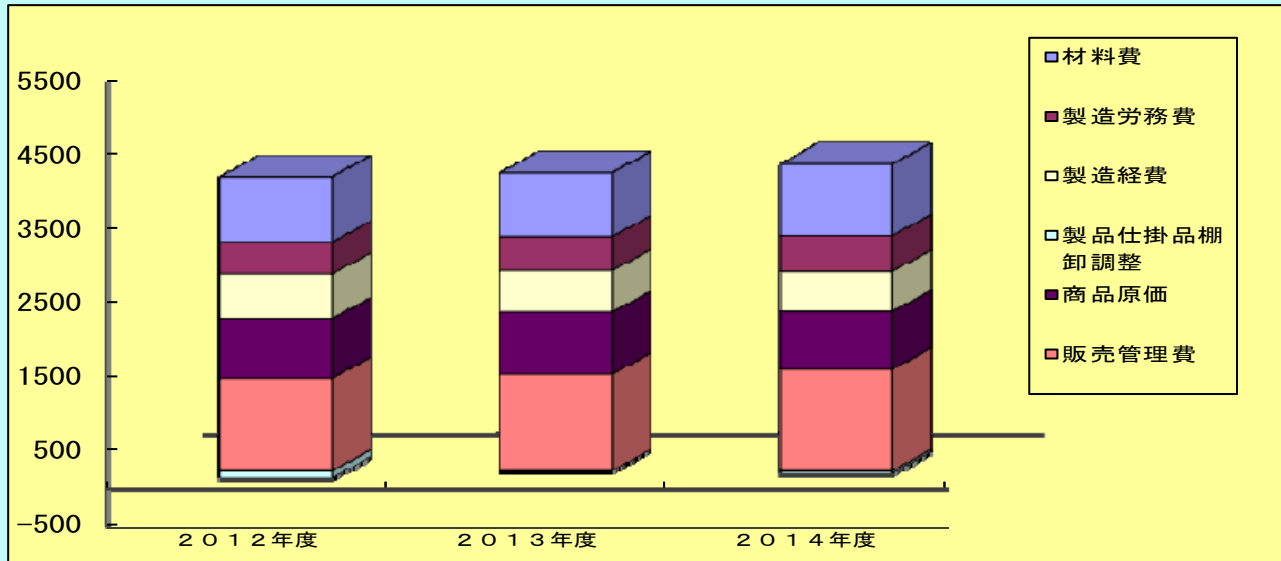
	2012年度	2013年度	2014年度
支払手形	83.5	70.1	109.1
買掛金	1,601.5	1,590.8	1,608.6
借入金	3,346.8	4,021.3	3,573.7
社債	423.9	212.6	100.0
その他の負債	1,426.5	1,049.2	1,345.8
純資産(資本)	3,863.6	3,819.3	3,932.8
合計	10,745.8	10,763.4	10,669.9

## 当第2四半期末の特徴

- ① 売上高の増加に伴い、支払債務（支払手形＋買掛金）は、前第2四半期末比で57百万円の増加となっております。
- ② 借入金及び社債の合計残高は、長期借入金の折り返しのタイミングにより、前第2四半期末比では5億60百万円減少しております。
- ③ 自己資本比率は、建物、機械装置等の減価償却の進捗による総資産の減少、四半期純損失の減少による利益剰余金の増加や株価上昇にともなう保有有価証券の評価差額金の増加等による純資産の増加等により、当第2四半期末も36.9%と高水準を維持しています。

## 第2四半期累計期間の売上原価・販売管理費状況推移

(単位：百万円)



単位：百万円、小数点以下第2位四捨五入

	2012年度	2013年度	2014年度
材料費	883.6	864.5	964.7
製造労務費	430.5	458.0	483.0
製造経費	603.7	561.8	541.1
製品仕掛品棚卸調整	△ 97.5	△ 1.5	△ 36.9
商品原価	805.3	839.0	783.4
販売管理費	1,252.6	1,307.2	1,371.8
合計	3,878.1	4,029.0	4,107.1

## 当第2四半期累計期間の特徴

- ① 材料費は、年度後半以降に向けた製品供給体制の強化等もあり、前年同期比で1億円増加し、製品売上高に占める比率は前年同期比で1.4ポイント増の32.8%となりました。

製造労務費も、前年同期比で25百万円の増加となりましたが、製品売上高も増え、売上高に占める比率は、ほぼ前年同期間並みとなりました。

製造経費は、前年同期比で21百万円の減少となり、製品売上高に占める比率は前年同期比で2ポイント改善しました。

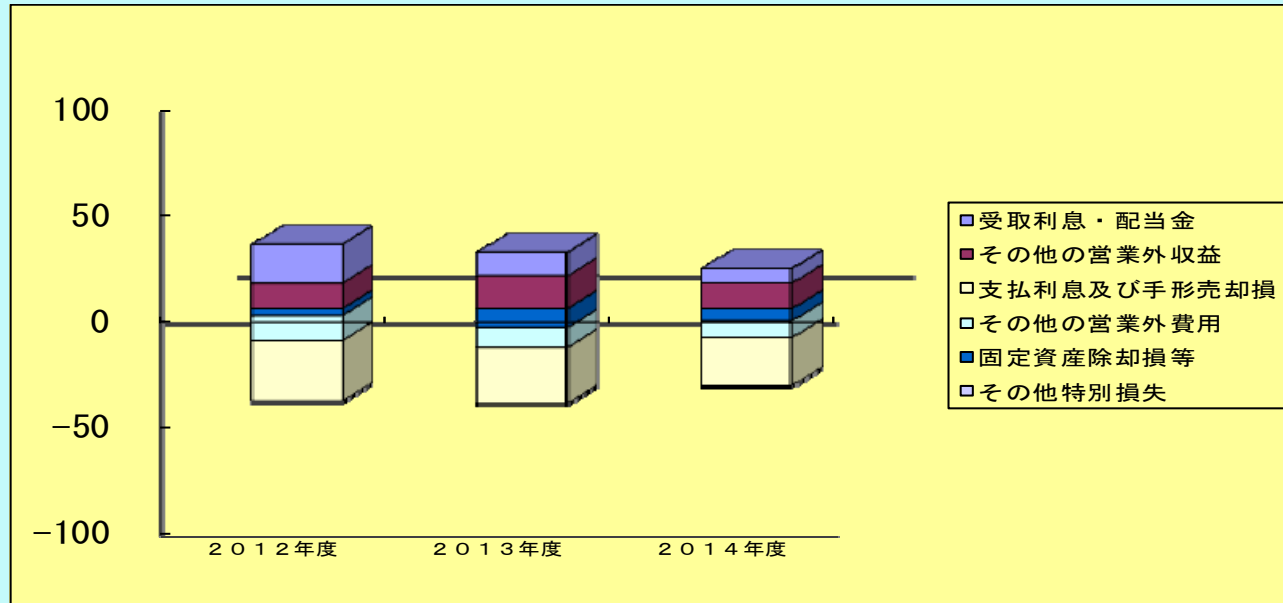
- ② 商品原価については、商品売上高に対する原価率は76.5%と、ほぼ前年同期間並みの水準を維持しています。

- ③ 販売費及び一般管理費については、積極的な新製品開発・拡販活動の推進等もあり、前年同期間比では65百万円の増加となりました。



## 第2四半期累計期間の営業外・特別損益推移

(単位：百万円)



単位：百万円、小数点以下第2位四捨五入

	2012年度	2013年度	2014年度	
営業外損益	受取利息・配当金	18.3	11.1	6.8
	その他の営業外収益	12.0	15.4	12.1
	支払利息及び手形売却損	△ 28.6	△ 26.5	△ 22.7
	その他の営業外費用	△ 11.8	△ 9.3	△ 7.9
	営業外損益合計	△ 10.0	△ 9.3	△ 11.7
特別損益	固定資産除却損等	△ 3.3	△ 9.0	△ 5.7
	その他特別損失	-	-	-
	特別損益合計	△ 3.3	△ 9.0	△ 5.7

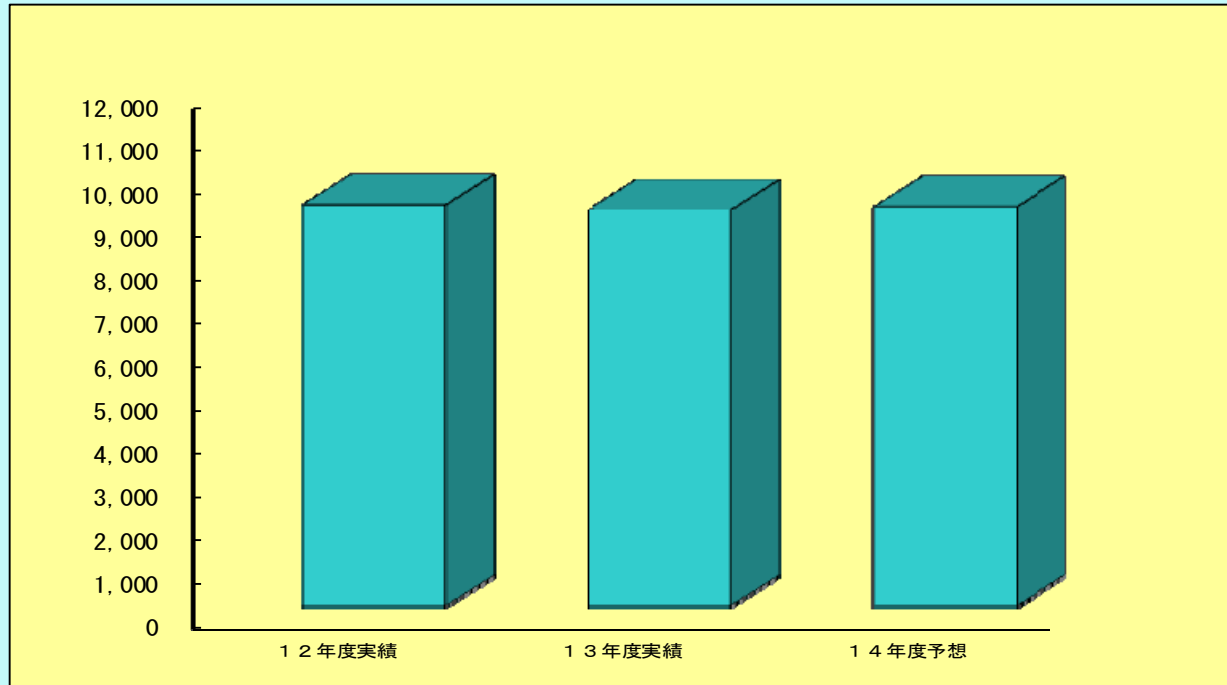
### 当第2四半期累計期間の特徴

- ① 営業外収益は、その他の営業外収益が増加したものの、補助金収入や保有株式の受取配当金が減少したため、全体では前年同期間比で8百万円減少しました。
- ② 営業外費用は、売上割引が増加したものの、長期借入の金利圧縮により、支払利息が4百万円減少した結果、全体でも前年同期間比で5百万円減少しました。
- ③ 特別利益に計上すべきものは、前年同期間と同様にありません。
- ④ 機械装置等の固定資産除却損6百万円を特別損失として計上しております。

# 2014年度 通期業績予想

## 2014年度 通期の売上高予想

(単位：百万円)



単位：百万円、小数点未満四捨五入

	12年度実績	13年度実績	14年度予想
通 期	9,241	9,120	9,200

## 状 況 と 見 通 し

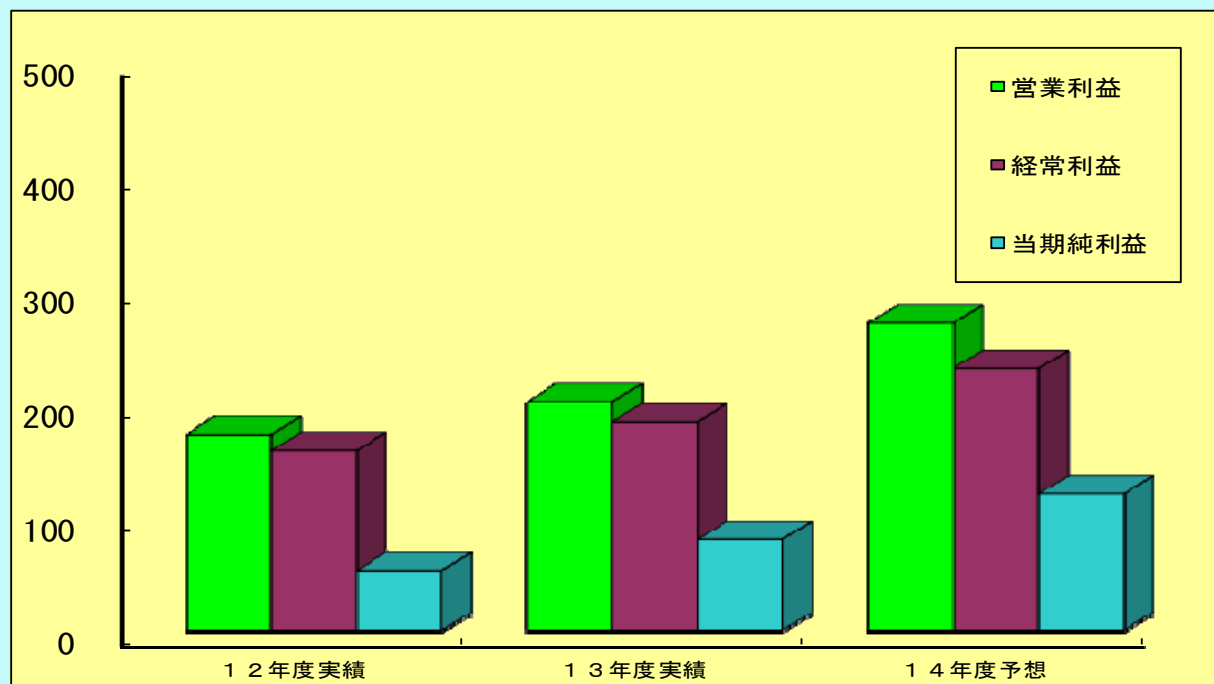
当第2四半期累計期間の売上高は、消費税率引き上げに伴う反動減が予想を下回ったことや、原子力発電所向け製品の受注が一定水準以上を維持したこと等により、本年5月に公表した業績予想に比し、1億17百万円増加しました。

通期の業績予想につきましては、当事業年度後半の事業環境や受注動向等を踏まえ、現時点では、本年5月に公表した92億円から大きく乖離はしないものと見込んでおります。

今後、上記の見通しに変化があると予想された場合は、遅滞なく業績予想の修正を行ってまいります。

## 2014年度 通期の利益予想

(単位：百万円)



単位：百万円、小数点以下第2位四捨五入

	12年度実績	13年度実績	14年度予想
営業利益	172.9	201.0	270.0
経常利益	158.7	183.8	230.0
当期純利益	53.6	80.4	120.0

## 状況と見通し

当社における年間売上高の構成を前事業年度実績で見ますと、上半期 38.5 億円、下半期 52.7 億円（内、第4四半期 32.3 億円）と、恒常的に下半期、特に第4四半期に偏重しております。

当第2四半期累計期間における利益実績は、前事業年度に引き続き、研究開発力の強化及び新製品拡販活動の推進等による費用先行もあり、本年5月公表の利益予想を下回りましたが、引き続き、第3四半期以降も製・商品ともに積極的な拡販活動に注力してまいります。

以上のことから、現時点では5月公表の当初予想は修正せず、通期では営業利益2億70百万円、経常利益2億30百万円、当期純利益1億20百万円を見込んでおります。